

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	児童生徒大会派遣事務事業			会計	款	項目	大事	小事	
				01	10	01	03	01	07
政策	03	3節 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）		主管課	指導課				
施策	3-2	個性を生かす教育環境の基盤充実		主管課長	西村 淳				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内小中学校で部活動に参加している児童生徒	意図	県大会レベル以上の大会・コンクールの参加を支援し、小中学校の文化・スポーツの振興と資質・能力の向上を図る。
事業内容	市内小中学校の文化・スポーツの振興と資質・向上を図るため、県大会レベル以上の大会・コンクールへの参加を支援していく。			
事業開始から現在までの状況変化	運動部活動の競技レベルの向上がみられる。年度により上位大会、コンクール等への出場人数には変化があるが、県大会・関東大会・全国大会へ出場する児童生徒が数多くいる。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	小学校の部活加入率	58.30	58.30	57	%
②	中学校運動部活動加入率	70.90	71.40	69.90	%	→→	(運動部活動加入総数/総数)×100
③	中学校県総合体育大会・県新人大会出場者数	652	579	536	人	↓↓↓	
④							
⑤							
⑥							
指標で表すことができない定性的な成果	県・関東・全国大会への出場を目指し、児童生徒が教師と一体となって努力している。その姿を見守る家庭が児童生徒の心身の発育発達の一助となっている。			目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 小学校の運動部加入率は、4～6年生の5割を超え、陸上競技、ミニバスケットボールを中心に運動する機会が増えている。中学校においては、運動部活動への加入率は文化系部活動との関係から上下動しているが、定期的に運動する生徒は多い。 夏の県総合体育大会には266名、秋の新人大会では270名の生徒が出場を果たした。 また、関東大会出場者が11名、全国大会には12名の生徒が出場を果たした。			
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度			
事務事業の総コスト(a=b+c)		2,981,640	2,957,830	2,940,714			
事業費(b)(円)		1,951,890	1,951,030	1,951,914			
うち一般財源		1,951,890	1,951,030	1,951,914			
職員給与費(c)(円)		1,029,750	1,006,800	988,800			
人役・職員(人)		0.15	0.15	0.15			
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	小中学生の文化・スポーツの振興と資質・能力の向上を図るために、予算の範囲内で充実した支援を行う。	③取組における課題(Check)	小中学生の部活動等で多数の児童生徒が上位大会等に出場する機会が増加してきており、事業費の確保が必要である。
②H30に実施した取組(Do)	各種大会・コンクールへの支援を行った。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	限られた事業費の中で、最大限の支援を迅速に行っていく。